

イヌにおける第三者社会的評価に関する実験研究 ―イヌ向けの話し方に基づくヒトへの選好形成に着目して―

氏名 田中瑠香

指導教員 瀧本彩加

私たちヒトは、自分たちにとって直接的な関連がなくても、第三者間のやりとりに関心を持ち、そのやりとりを見聞きして、他者を評価する (Chijiwa et al., 2021)。これを第三者社会的評価といい、イヌは、飼い主に非協力的な人を中立な人よりも回避して、第三者社会的評価をする (Chijiwa et al., 2015)。イヌは、ヒトにとって非常に身近な存在であり、見知らぬヒトとも新たに良好な関係を築くための手がかりを第三者同士のやりとりからも得ることは重要であろう。では、イヌが、非協力性以外に、第三者間のやりとりを見聞きして得る情報の中で、他に何が重要であろうか。イヌに対して、イヌ向けの話し方 (Dog-directed speech, 以下, DDS) で話してかけてくれる優しさがその候補として挙げられる。DDS を含むペット向けの話し方 (Pet-directed speech, 以下, PDS) は、幼児向けの話し方 (Infant-directed speech, 以下, IDS) と同様、大人向けの話し方 (Adult-directed speech, 以下, ADS) と比べ、高い声で話し、単語の音が長いという共通点がある (Burnham et al., 1998)。実際、イヌでは、ADS よりも DDS に注意が引かれる可能性 (Jeannin et al., 2017) や、イヌが自身に向けられた自然な ADS よりも自然な DDS を好む可能性があるという報告がある (Benjamin & Slocombe, 2018)。そこで、本研究では、Benjamin & Slocombe (2018) での手続きを参考にして、イヌはヒトが第三者のイヌに話しかける様子を観察して第三者社会的評価をし、イヌ向けの話し方に基づいてヒトに対する選好を示すかどうかを検討した。具体的には、イヌのぬいぐるみに対して、事前に収録した同じセリフを異なる話し方 (ADS または DDS) で話す音声を、2 人の実験者がそれぞれスピーカーから再生するという、話しかける様子を模したやりとりをイヌに見せ、その後、イヌがどちらの実験者の差し出したエサを受け取るかを測定するという試行を、各イヌに対して 4 試行実施した。その結果、第 1 試行においては、イヌによる DDS の選択率は、チャンスレベルと有意差がなかった。一方、全 4 試行においては、イヌは ADS よりも DDS を有意に多く選択し、その DDS 選択率は ADS 選択率の 1.824 倍であることが示された。この結果は、イヌはヒトが第三者のイヌに話しかける様子を観察して第三者社会的評価をし、イヌ向けの話し方に基づいてヒトに対する選好を示す可能性を示唆している。